

2015年11月10日

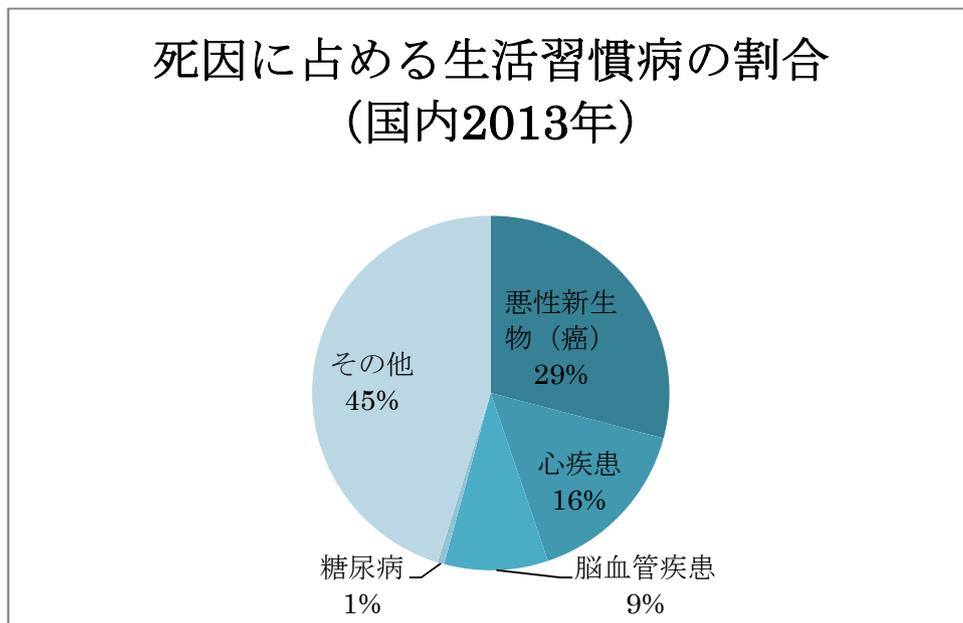
健保だより

新電元工業健康保険組合
理事長 小笠原政教

日頃、新電元健康保険組合に対し、ご理解とご協力を頂き心より感謝を申し上げます。
今日本では超高齢化社会を迎え、医療費の増大が大きな問題となっています。医療費の増大によって生じる様々な問題は健康保険組合全体にも大きく影響し、新電元健康保険組合も決して例外ではありません。そこで皆様に健康保険組合について、もっと知って欲しいとの願いを込めて、新電元工業のご協力も得ながら「健保だより」を発行することにしました。健保だよりは今後定期的に発行し、様々な情報を発信して参りますので、皆様の健康維持管理の参考にしていただければ幸いです。

さて、日本の総人口のうち65歳以上の占める割合（高齢化率）は、25.9%（平成26年9月現在）と世界トップの水準にいます。このような変化は身近なところも大きく影響を与えています。例えば年齢を重ねると疾病にかかる人の割合が多くなり、その分医療費が増大している状況もその1つです。

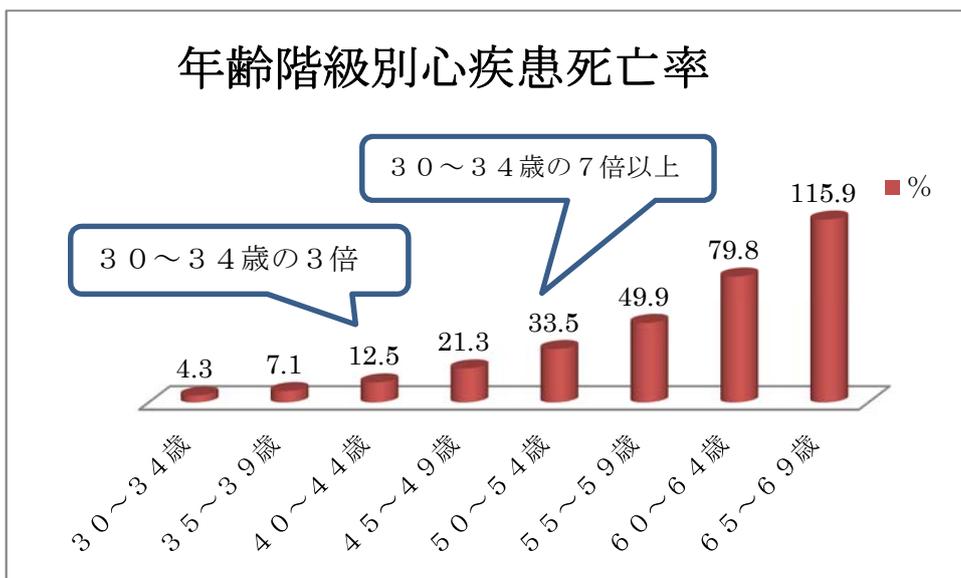
“生活習慣病”と云う言葉は、ほとんどの方が聞いたことがあると思います。日本人の死因の5割以上は生活習慣病が占めています。



厚生労働省資料より

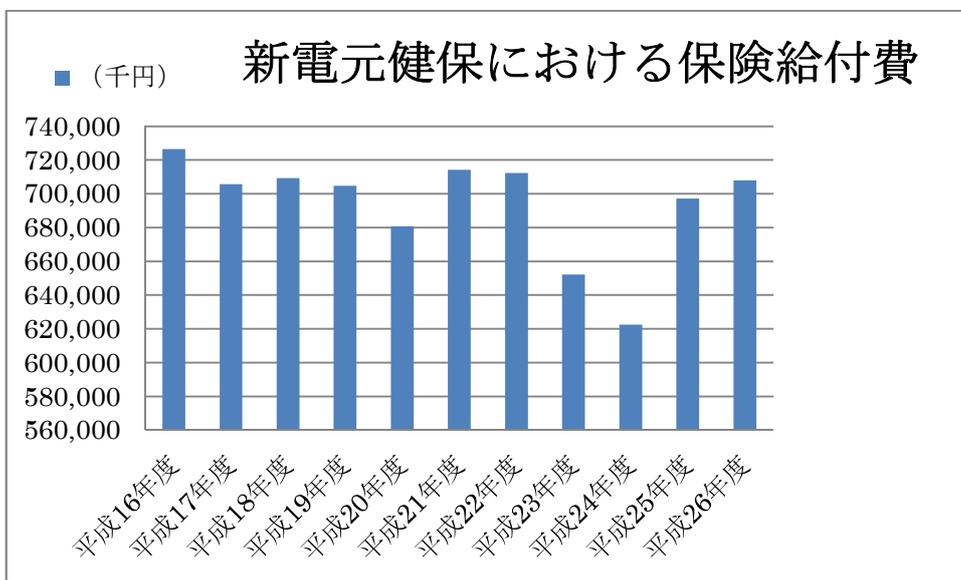
生活習慣病の発症や重症化は、生活習慣や加齢の影響を大いに受けます。例えば、40歳代前半の男性は、30歳代前半に比べて心筋梗塞などの心疾患は約3倍高く、50歳代前半になると7倍以上になります。生活習慣病の要因は、不規則な生活、飲酒、喫煙、カロリー過多の食事、運動不足を長年続けたことによって引き起こる疾患です。これらを予防するには、少しでも早い段階で規則正しい生活習慣、禁煙、適量な食事と飲酒、健康管理が大切です。

年齢階級別心疾患死亡率



厚生労働省資料より

超高齢化社会に伴い、日本国内は医療費の増大が大きな問題となっています。平成25年には国民医療費は40兆円を超え、今尚増え続けています。この問題は新電元健康保険組合に於いても決して例外ではありません。下のグラフは当健保の保険給付費を年度毎に表しています。保険給付費とは被保険者や被扶養者の病気、けが、出産、死亡の場合に健康保険組合に定められた給付を支給した金額です。グラフでは一見、横這いに推移しているように見えますが、被保険者と被扶養者の人数が減少していることを考慮すれば実態は増額傾向であると判断できます。



全ての疾病に発症を防ぐことは無理でしょうが、生活習慣を見直すことによってかなり防げることが分かっていますし、発症するにしても遅らせることが可能です。

日々の生活や会社に居る時間を無事に過ごすことは、健康の上に成り立っていることを忘れてはならないと思います。

以上